

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年03月17日

計画の名称	磐田新駅周辺における交通結節点の機能向上と南北交流の創出（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	磐田市												
計画の目標	磐田新駅周辺における交通結節点の機能を強化するため、磐田新駅南北連絡線の街路整備事業を実施し、新駅北口側の市街地と南口側の市街地を誰もが安心して移動できるバリアフリー施設を適切に配置することで健全な交流の創出を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,557	A	1,557	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28当初)	中間目標値	最終目標値 (H32末)
1	安心して磐田新駅の南北間を移動できる空間を確保し、歩道のない現在の跨線橋を使用する歩行者を減少させる。 バリアフリーに対応した歩行者専用道路の整備により、歩道のない跨線橋の歩行者数を減少させる。 歩道のない跨線橋（坊中橋）を渡る歩行者数を計測する。	80人	人	40人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	磐田市	直接	磐田市	S街路	改築	(都)磐田新駅南北連絡線	自由通路 L=130m	磐田市						1,557		-
											小計						1,557		
											合計						1,557		

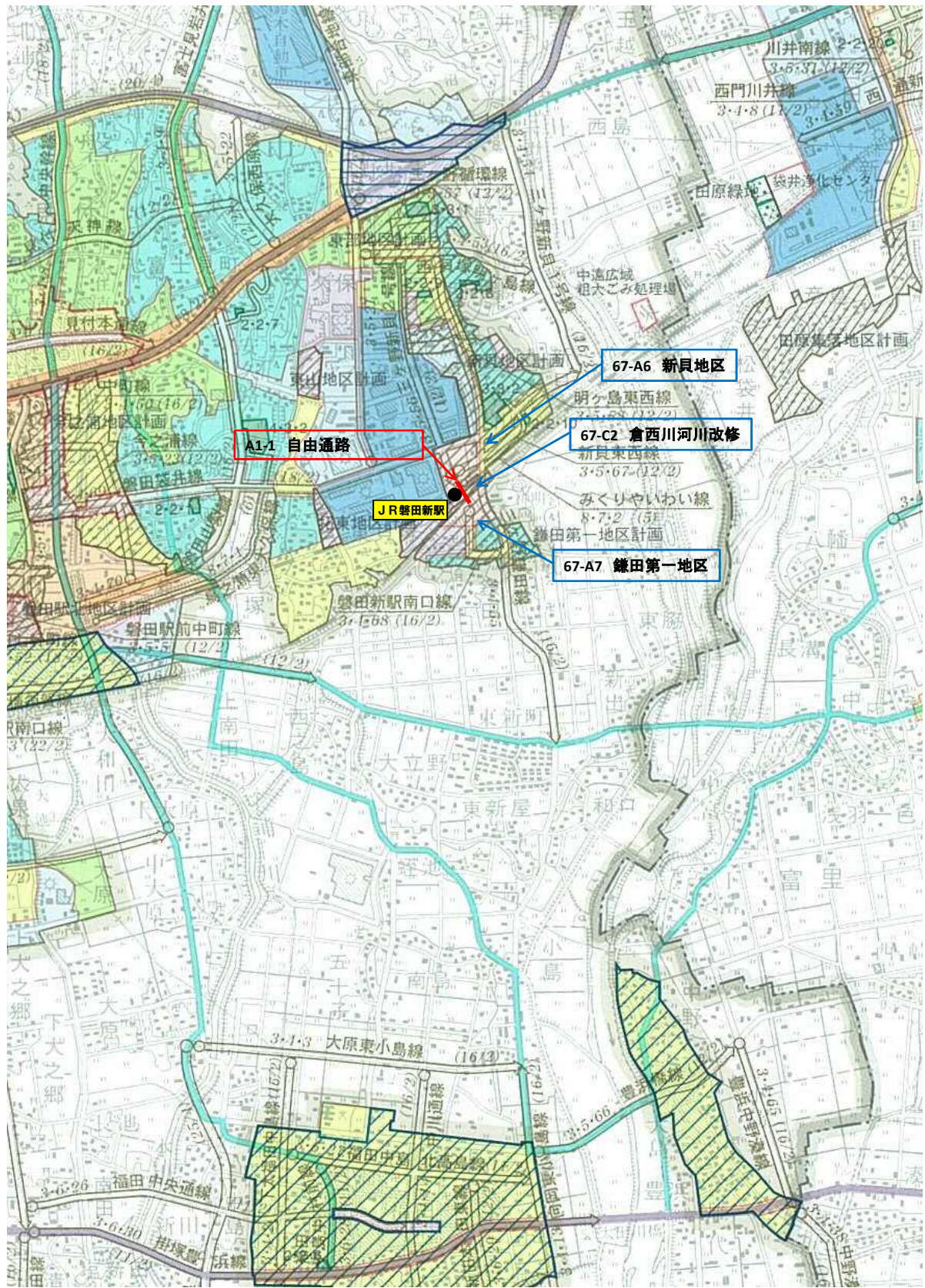
事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 磐田市建設部公共事業評価審査委員会に諮り実施	事後評価の実施時期 事業完了後 令和2年度
	公表の方法 磐田市のホームページへ掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	(都)磐田新駅南北連絡線(自由通路)が令和2年3月7日に一部供用開始をし、14日にはJR東海道線御厨駅(磐田新駅)が開業した。 また、令和3年1月にエスカレーター設置が完了し、誰もが安心して通行できる自由通路の完成に寄与した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	(都)磐田新駅南北連絡線(自由通路)の整備完了により、幼小中学生の通学路としても使用することとなり、通学時の安全に寄与している。
特記事項(今後の方針等)	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	40人
	最終実績値	17人
<p>バリアフリーに対応した歩行者専用道の整備により、歩道のない跨線橋の歩行者数の減少させる。</p> <p>（都）磐田新駅南北連絡線（自由通路）の完成により、南北地域の住民の通勤や通学、日々の散歩等に利用され、犬等を連れだ散歩やランニング、自転車を引いての通行に限り既存の跨線橋を使用するようになった。</p>		

社会資本総合整備計画（防災・安全交付金） 参考図面

計画の名称	82 磐田新駅周辺における交通結節点の機能向上と南北交流の創出（防災・安全）	交付団体	磐田市
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）		



社会資本総合整備計画（防災・安全交付金） 参考図面

